

## ● 読書感想文コンクール 中学校の部 ●

**優秀賞 道喜 実咲 (どうきみさき) 別所中 1年生**

作品名：自分を見つめ直す

図 書：怪物はささやく

「真実を話せ！」

いかめしくて、うなじのうぶ毛が逆立つようなおそろしい声で、怪物は言いました。

物語の主人公であるコナー・オマリーは、ガンを患う母親を持つ、十三歳の男の子。そんなコナーの前に、ある夜、怪物が現れます。この怪物の一言のお陰で、コナーは苦しみから抜け出すことができます。そして、母親の死も受け入れることができます。私は、そんな怪物の一言には、たくさんの愛情や、優しさが溢れていると思いました。この一言で、コナーの苦しかった気持ちが軽くなる、そんな力もある一言が、一番、私の心に残りました。

でも、もし私が、いかめしくて、うなじのうぶ毛が逆立つようなおそろしい声で怪物に何か言われたら、怖くて逃げ出してしまうと思います。それに、ただ怒られたり、どなられたりしただけでも、自分が被害者だという気分になってしまったり、怒ってる人を苦手だと思つてしまったりする人も多いと思います。私もそうでした。

あるとき、私の考えを変えるきっかけになった出来事がありました。それは、習い事でのことです。宿題をやらずに習い事に来て、怒られている人がいました。その人は、他の習い事があったせいにして、少しも反省していませんでした。先生の話も真面目に聞いていなかったので、「誰のために怒っているのか考えろ！」と先生はどなりました。先生は、とても一生懸命になって怒っていました。それは、その人のことを心配しているからなんだろう、と思いました。私たちのことがどうでもいいなら、わざわざ怒る必要はありません。こんな出来事があつてから、「怒られる」のではなくて、「怒ってくれている」と考えられるようになりました。そして、これからは怒ってくれる人に感謝して、その人のことを尊敬できるようになろう、と決めました。これは、部活や勉強、仕事などでも一緒だと思います。怒られて、すぐにあきらめてしまったり、やめてしまったりするのはいけないと思います。怒られたり、どなられたりしてしまったことは、将来、絶対に自分のためになります。だから私は、怒られたことを、自分のプラスにするために、自分自身

を見直したり、自分の悪いところを見つけて、その悪いところを、自分で直せるような人になりたいです。

物語では、怪物が現れる前のコナーも、とても苦しんでいました。母親を助けたい、という気持ちと、死んでしまうときを待つのは耐えられない、だからいっそ、いなくなってしまえばいい、という気持ちの、両方を抱えていました。

人間は複雑な気持ちを抱えていることがあります。その複雑な気持ちは、その人を苦しめてしまうこともあります。その苦しみから救うができるのは、人間の優しさだったり、相手を心配する思いだったり、あるときは友情だったりするかもしれません。そして、その気持ちを伝えたいとき、表現したいときは、厳しい言葉や、厳しい態度ではないと、伝わらないこともあるかもしれません。物語の怪物のように、大切に思っている人にこそ時には厳しい言葉をかけたり、厳しい態度で接したりしないといけないのだと思います。

そして、逆に何か注意されたり、怒られたりしてしまったときには、怪物のように外見が怖かったとしても、自分が苦手な人だったとしても、それを素直に受け止めて、自分自身を見つめ直すことが大切だと思いました。

物語は、母親が死んでしまう場面で終わります。コナーは、怪物のお陰で、母親の死に向き合うことができ、受け入れることができました。もし怪物が現れていなかったら、コナーは、いっそ、いなくなってしまえばいい、なんて思ってしまった、母親への罪悪感や、複雑な気持ちに負けてしまったりして、母親の死に向き合えなかったかもしれません。

コナー・オマリーと怪物の物語を読んで、自分を見つめ直すきっかけになつたし、これから自分のためになることを教わった気がします。自分を怒ってくれる人がいるのは幸せなことで、それを自分のプラスにできるかどうかは自分次第であるということ。これは、当たり前ですが、とてもとても大切なことで、いつでも意識しておくべきことだと考えました。